

## 浦幌で初めてのウチダザリガニ駆除

円子 紳一\*

Shinichi Maruko, 2016. The first time extermination of *Pacifastacus luniusculus trowbridgii* in Urahoro, Hokkaido.

Bulletin of the Historical Museum of Urahoro, 16: 9-13.

### はじめに

特定外来生物に指定されているウチダザリガニ（ザリガニ科 *Pacifastacus luniusculus trowbridgii*）が、2014年9月に浦幌川に生息していることが確認された。

町民からの情報によると、15年ほど前に浦幌川と支流のオベトン川に放流した人が複数いたとのことである。話からすると釧路湿原の河川・湖沼で採集したものを持ち帰り、飼育できずに浦幌川と支流に放流したもので、量的には不明だがバケツ1杯あったとのことである。

ウチダザリガニはアメリカのコロンビア川周辺が原産地であり、1926年から1930年にかけて北海道のほか1都1府21県に、当時の農林省水産局が優良水族導入（食用）として移入した。北海道では1930年に摩周湖に放流され、そこから持ち出された個体の放逐により分布を拡大しているとされる。

2004年5月に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が成立。同法は2005年6月に施行され、ウチダザリガニは同年12月の第二次指定リストで追加された。

### ウチダザリガニ

ウチダザリガニは体長15cm以上にもなり、在来のニホンザリガニの2倍ほどに成長する。両種の違いは①大きさが違う②ウチダザリガニは第一胸脚（ハサミ）の可動部に目立つ白斑がある③ウチダザリガニの頭（額角先端）には3つのとがった山がある（ニホンザリガニは1つの大きな山）④ハサミの下（腕節）にウチダザリガニはトゲがない（ニホンザリガニはある）などである。

ウチダザリガニが問題視されるのは、主に①餌や生息地の競合、直接の捕食によりニホンザリガニを駆逐すること②水カビ菌（ザリガニペスト）の保菌者となり、ニ



図1 捕獲されたウチダザリガニ

ホンザリガニは感染すると100%致死する恐れがあること③底生魚類・植物など水生生物の食害などがあげられる。

然別湖では北海道天然記念物のミヤベイワナ（オショロコマの亜種）の生息地で、産卵に利用される水草が食害などで荒らされていて、2015年7月28日には1日で約2,300匹も捕獲された。

摩周湖では国の天然記念物マリモに穴を開けることも報告されている。

### 防除認定申請

「浦幌の自然を楽しむ会」では2015年、実態調査と駆除のため必要な手続きを行った。特定外来生物に指定されている本種の駆除には、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、環境省北海道地方環境事務所から防除に係る認定を受けた。

調査を進めるなかで対象地域全体に生息を確認したので、町内全域を調査区域とする内容変更を申請し認定を受けた。

また、カニカゴを使って捕獲するため、「北海道内水面

\* 浦幌の自然を楽しむ会 〒089-5634 北海道十勝郡浦幌町字帯富

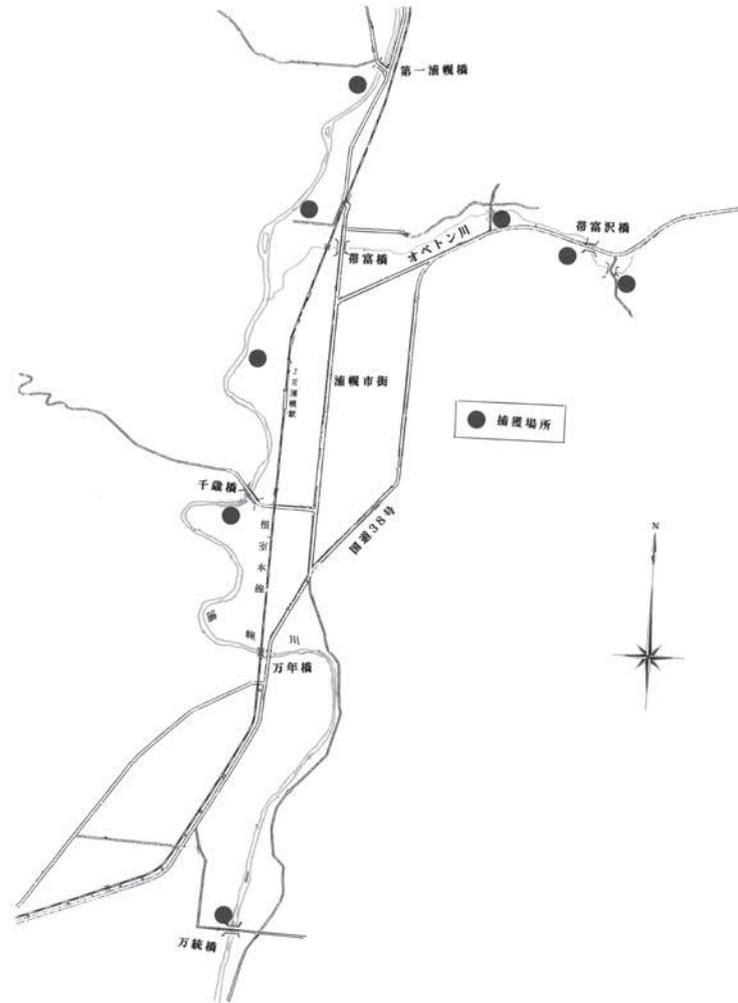


図2 ウチダザリガニの捕獲地点

漁業調整規則」に基づき北海道から内水面採捕の許可を受けた。

#### 学習会の開催

浦幌町でのウチダザリガニ駆除は初めての試みである。調査・駆除に関する知識が皆無だったことから、9月20

日に町教育文化センターで「ウチダザリガニってどんなザリガニ?」と題した学習会をうらほろスタイル・ゼミナールとして本会と町立博物館・中央公民館の共催で開催した。講師に美幌博物館の町田善康学芸員を迎えて、生態や外来種問題を学んだ。

#### 調査区域と調査・駆除方法

調査区域は、放流情報をもとに、十勝川水系浦幌川の第1浦幌橋から万統橋までの区域、同川支流オベトン川の浦幌川合流点から国道38号線までの区間とその上流(図2)とした。

調査は、2015年7月29日から11月7日までに10回試みた。本会の会員述べ19人、浦幌町立博物館の持田誠学芸員、11月7日は酪農学園大学の佐藤喜和教授と学生ら17人が駆除体験した。

捕獲方法は、スルメを餌としたザリガニ釣りや冷凍サンマを餌としたカニカゴの設置、たも網への足による追い込みを行った。



図3 標本を前に説明する町田学芸員(左)



図4 ウチダザリガニの塩ゆで作業



図5 ウチダザリガニの計測

捕獲したウチダザリガニは、その場で全長と体重を計測し記録後に殺処分した。11月7日に捕獲したものは浦幌町立博物館へ寄贈し冷凍処理した。

### 結果と考察

生息は当初の調査区域である十勝川水系浦幌川の第1浦幌橋から万統橋までの区域、同川支流オベトン川の浦幌川合流点から国道38号線までの区間とその上流で確認された。このことから生育区域が拡大していると考えられるため、出来るだけ広範囲の調査を行なう必要がある。

今年の調査で捕獲したウチダザリガニは、合計111匹だった。雌雄の内訳はオス55匹、メス45匹、不明11匹であった。小さな個体は雌雄判別が出来なかった。

全長、体重ともに計測できた個体によると、全長の平均値は85.48mm（最大値129mm、最小値19mm）、体重の平均値は34.38g（最大値97g、最小値7g）であった。最大個体は、オスが121mm、97g、メスが129mm、76gだった。

浦幌川の森永乳業裏では、7月30日24匹、8月7日15匹、11日22匹が捕獲され、生息数が減少したとは思

えない状況である。特に11日はカニカゴを設置してからわずか30分ほどで捕獲できた。

また、11月1日に浦幌川で捕獲したもののうち2匹が抱卵していた。まだまだ実態をつかめていなが、11月7日にオベトン川で捕獲された12匹は19mmから42mmと小さな個体だったことから繁殖していることは間違いないと思われる。

個体ごとの計測値などの記録を表1に掲載した。図6に全長と体重、図7に全長と個体数、図8に体重と個体数のグラフを掲載したが、個体数が少ないので今回の結果が示す傾向として参考に資するものである。

### 浦幌での影響

浦幌町でのニホンザリガニの生息地は、筆者が知る限りでは中浦幌地域から海岸付近であるが、オベトン川のようにニホンザリガニの生息地域にウチダザリガニが侵入していることを考えると、町内各地で同様な事態が心

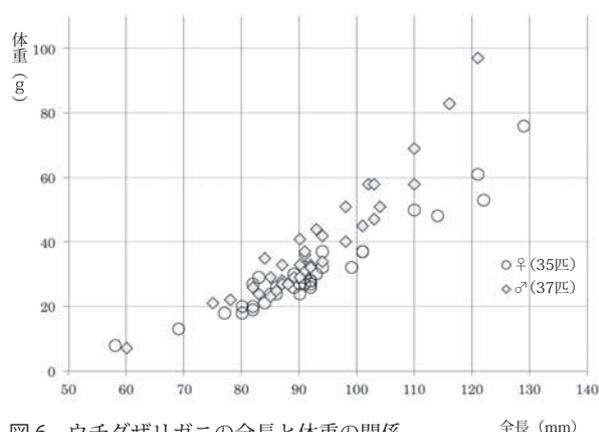


図6 ウチダザリガニの全長と体重の関係

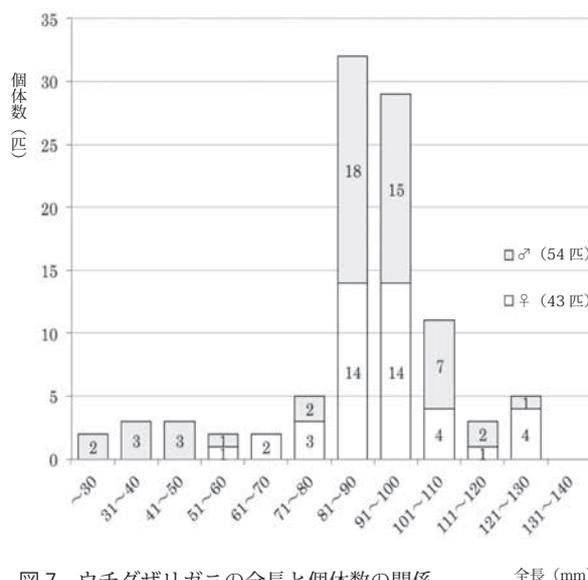


図7 ウチダザリガニの全長と個体数の関係

配される。

また、浦幌十勝川ではワカサギなども生息し、かつては十勝太の新川でシヤマモの放流も行われていたが、生息域が拡大していると小魚や秋サケの卵・稚魚の食害なども懸念される。

### 今後の対策

浦幌川本流での完全な駆除は不可能と考えられるため、同川では分布域の調査を基本として、これ以上の拡大を防止する対策の検討が必要である。

特に、オベトン川はニホンザリガニとの競合が心配だが、小河川なので徹底した駆除が可能と思われるので、今後も継続して駆除を実施することが望まれる。

### おわりに

本来は生息していない地に出現したウチダザリガニ。人間の都合で移入された本種を始めミンクやアライグマなどは、生態系に重大な影響を与えることが心配され、外来生物として嫌われ者扱いされている。でも、これらの生物もその地で懸命に生きているのである。

彼らを嫌われ者扱いするのではなく、それぞれの命を考えて対処することも必要で、なぜ駆除しなければならないのか、どのような対応が必要なのかを町民や子どもたちに伝えたいと思う。

### 謝 辞

「浦幌の自然を楽しむ会」の活動の一環としてウチダザリガニ駆除に参加した吉原敬司会長、川畑裕幸副会長、

堀川真一氏、佐藤芳雄氏、春日基江氏、荒川和子氏と、日頃からアドバイスいただいた浦幌町立博物館の持田誠学芸員、講習会で講師をお願いした美幌博物館の町田善康学芸員に心から感謝申し上げる。

また、特定外来生物の防除の認定申請に際しては環境省釧路自然環境事務所の源関絢さん、同省北海道地方環境事務所の小関ますみさん、平井和登さん、小野良臣さん、北海道内水面漁業調整規則に係るかごによる採捕許可申請に際しては十勝総合振興局の熊谷直幸漁業管理係長、橋本和義主任から丁寧なご指導を、同帯広建設管理部浦幌出張所の次田満主査からかご設置について貴重なアドバイスをいただいたことに心からお礼申し上げます。

なお、本調査・駆除経費の多くは、浦幌町の「笑顔輝く地域づくり支援事業」の補助金を得て行われたものである。

### 参考文献・資料

- 北海道. 2010. 北海道の外来種リスト：北海道ブルーリスト 2010, 36pp. 北海道環境生活部環境局自然環境課特定生物グループ, 札幌.
- 町田善康. 2015. ウチダザリガニってどんなザリガニ?. 浦幌町立博物館講座資料.
- 円子紳一. 2013. 浦幌の外来種を考える. 浦幌町立博物館紀要, 13: 7-14.
- 斎藤和範・林直光. 2006. 外来ザリガニ類の話. ファウラ, 12: 25.
- 十勝毎日新聞. 2015. ウチダザリガニ駆除始まる 鹿追・然別湖. 2015年7月30日付 [電子版 <http://kachimai.jp/article/index.php?no=308092>]
- 吉田剛司・上原裕世. 2014. 継続は力なり 洞爺湖で

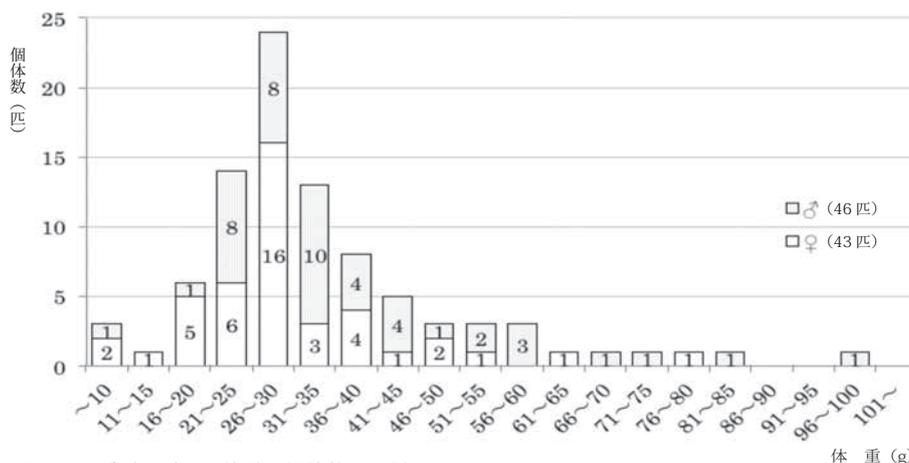


図8 ウチダザリガニの体重と個体数の関係

のウチダザリガニ対策の過去・未来. モーリー, 37:  
10-13.

ガニのページ」[http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/  
skn/alien/zarigani/zarigani\_top.htm]

北海道環境生活部環境局生物多様性保全課「ウチダザリ

表1 ウチダザリガニの計測値

No.	全長 mm	体重 g	雌雄 ♂・♀	鉋の状況	No.	全長 mm	体重 g	♂♀	鉋の状況	No.	全長 mm	体重 g	♂♀	鉋の状況
1	104	56	不明		41	85	24	♀		81	101	37	♀	
2	92	28	♀		42	84	21	♀		82	98	40	♂	
3	102	58	♂		43	58	8	♀		83	87	27	♂	
4	91	27	♀		44	62	9	♀	右欠損	84	80	18	♀	
5	93	30	♀		45	60	7	♂		85	91	37	♂	
6	84	35	♂		46	112	60	不明		86	103	47	♂	
7	92	26	♀		47	94	42	♂		87	88	27	♂	
8	91	31	♂		48	92	32	♂		88	92	28	♀	
9	106	37	♀	右欠損	49	98	40	♂	右小	89	91	29	♀	
10	86	24	♀		50	93	31	♂	両欠損	90	82	19	♂	右小
11	98	51	♂		51	110	69	♂		91	90	29	♂	
12	82	27	♀		52	93	44	♂		92			♂	
13	94	37	♀		53	114	48	♀		93			♀	抱卵
14	89	30	♀		54	90	33	♂		94			♀	抱卵
15	69	13	♀		55	101	45	♂		95			不明	
16	89	29	♂		56	101	37	♀		96			不明	
17	99	32	♀		57	96	26	♀	右欠損	97			不明	
18	83	29	♀		58	87	28	♂		98			不明	
19	92	33	♂		59	83	24	♂		99			不明	
20	103	58	♂		60	82	19	♀		100	37		♂	
21	104	51	♂		61	110	58	♂		101	41		♂	
22	90	24	♀		62	92	26	♂	左小	102	42		♂	
23	92	32	♂		63	88	23	♂	左小	103	32		♂	
24	86	26	♀		64	90	23	♀	左欠損	104	41		♂	
25	121	97	♂		65	85	24	♂	左小	105	34		♂	
26	129	76	♀		66	94	32	♀		106	21		不明	
27	90	41	♂		67	88	21	♀	右欠損	107	21		不明	
28	116	83	♂		68	121	61	♀		108	19		不明	
29	91	36	♂		69	91	29	♀	右小	109	27		♂	
30	87	33	♂		70	120	74	♂	左欠損	110	23		♂	
31	122	53	♀		71	91	32	♀		111	20		不明	
32	100	27	♀	両欠損	72	77	18	♀		平均	85.48	34.38		
33	90	27	♀		73	122	45	♀	両欠損				♂	55
34	82	20	♀		74	80	20	♀					♀	45
35	85	29	♂		75	110	50	♀					不明	11
36	88	23	♂	左小	76	86	25	♂					計	111
37	94	34	♂		77	96	35	♂	右小					
38	89	26	♀		78	82	26	♂						
39	85	23	♂		79	92	27	♀						
40	78	22	♂		80	75	21	♂						

※ No.1、46 は雌雄未確認

※ No.92～99 は全長、体重ともに未計測

※ No.95～99 は、雌雄未確認

※ No.100～111 は、体重未計測

※ No.106～108、111 は、小さいため雌雄判別不能